

今後の自動車排出ガス総合対策の在り方に関する検討動向



環境研究部 道路環境研究室 主任研究官 土肥 学 研究官 神田 太郎 室長 曾根 真理
 (キーワード) 自動車排出ガス、排ガス規制、NOx総排出量

中央環境審議会大気環境部会自動車排出ガス総合対策小委員会(以下、中環審)では、自動車NOx・PM法及び総量削減基本方針の見直し検討を進めている。2011年1月公表の中間報告では、2020年度までに対策地域全体の環境基準確保や、重点対策地区制度の活用促進・低公害車の一層の普及促進支援といった目標・施策の見直しの在り方が示された。中環審は引き続き制度全般の検討を進めることとしている。ところで、自動車NOx総排出量推移を中環審報告や環境省調査結果等から整理すると、2020年は2010年の約3割、2030年は約2割まで、大幅に低減すると見込まれる。これらは排ガス規制強化やより厳しい排ガス規制適合車普及によるものと考えられる。

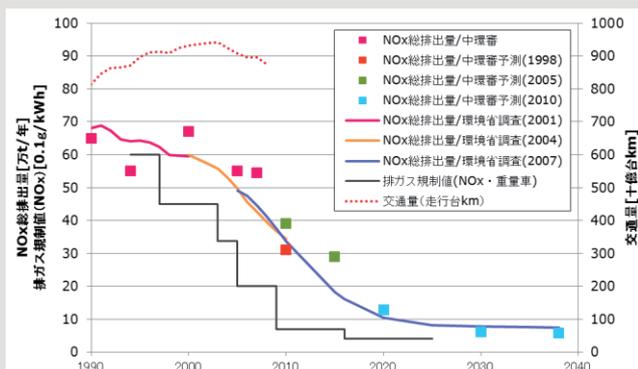


図 自動車からのNOx総排出量等の将来推移見込み

中環審大気環境部会自動車排出ガス専門委員会「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について」第二・三・八・九・十次報告書、環境省調査報告書「自動車排出ガス原単位及び総量に関する調査(2001)」、同「自動車排出ガス原単位及び総量算定検討調査(2004、2007)」、国土交通省「自動車輸送統計年報」のデータを用いて作成

【参考文献】

中環審「今後の自動車排出ガス総合対策の在り方について(中間報告)」, 環境省HP, 2011. 1.